

6章 防災指針

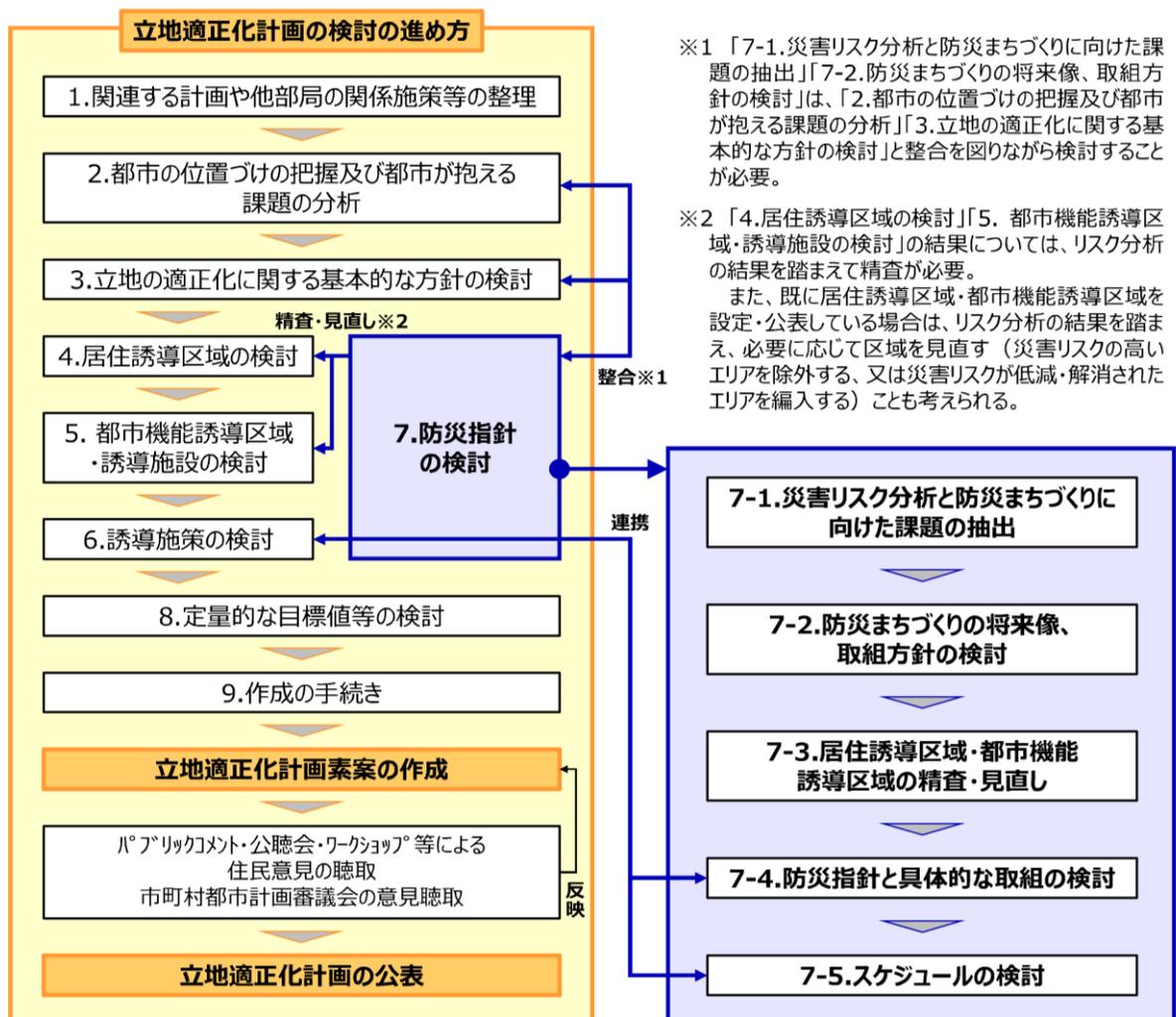
1. 防災指針とは

防災指針は、近年の自然災害の頻発化・激甚化を受けて、居住や都市機能の誘導を図る上で、災害リスクを踏まえたまちづくりを進めるため、立地適正化計画に定めることとされています。

奄美市においては、台風、豪雨、高潮、地震、津波などの過去に様々な被害が生じました。

このような自然災害の災害リスクに対し、奄美市総合計画や奄美市都市計画マスタープラン、奄美市地域防災計画をはじめとした防災関連の計画と連携し、対策を進めていきます。

■防災指針の検討プロセス



(立地適正化計画の手引き (国土交通省))

2. 過去の災害履歴

1) 津波の被害

- 本市では、1960（昭和35）年において、チリ地震に伴い4.4mの津波が襲来しました。
- また、2024年（令和6）年8月8日夕方には日向灘を震源とする地震が発生し、本市では震度2を観測し、気象庁は南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。本市においては、最大津波高6.0mが予測されています。

奄美市における過去の津波被害

発生年月	名称	被害規模
1960(昭和35)年5月	チリ地震津波	津波高4.4m(基本水準面上)

(名瀬測候所「過去の地震・津波被害」／鹿児島県「令和6年度奄美群島の概況」／鹿児島県「鹿児島県地震等災害被害予測調査」)

2) 風水害の被害

- 本市においては、これまでに複数回の風水害被害を受けています。
- 近年の代表的な被害としては、2010（平成22）年10月の集中豪雨による浸水被害が挙げられ、名瀬・住用地区において大きな被害を受けました。

奄美市における過去の風水害被害

発生年月	名称	被害規模（一部）
1990(平成2)年9月	台風19号（台風）	住家全壊、半壊（奄美大島全体）
2010(平成22)年10月	集中豪雨（大雨）	24時間降雨量648mm（名瀬） 住宅全壊、半壊、一部損壊、床上浸水、床下浸水
2015(平成27)年5月	台風6号（台風）	住家一部損壊
2015(平成27)年6月	集中豪雨（大雨）	住家床下浸水

(奄美市地域防災計画（令和7年）)

3) 地震による被害

- 本市においては、これまでに土砂災害や液状化の被害を受けています。

奄美市における過去の地震被害

発生年月	名称	被害規模（一部）
1911(明治44)年6月	喜界島近海地震	死者12名，全壊家屋422戸
1970(昭和45)年1月	奄美大島近海地震	建築物、道路の亀裂、家屋の損壊、がけ崩れ

(奄美市地域防災計画（令和7年）)

3. 災害リスクの分析

1) 対象とする災害リスク

- ・ 居住誘導区域及び都市機能誘導区域内の災害リスク分析を行うにあたり、発生する可能性がある災害ハザードデータを収集整理します。
- ・ 本市の防災指針で対象とする災害リスクは、地域特性や過去の災害履歴、国土交通省が示す防災指針の手引きを踏まえて以下のとおり設定します。

■対象とする災害リスク

災害種別	No.	ハザード情報
① 洪水(外水・内水) 洪水予報河川 水位周知河川 その他河川	1	洪水浸水想定区域(想定最大規模) 〈対象河川〉新川、浦上川、小宿大川
	2	洪水浸水実績(平成22年)
② 津波	1	津波浸水想定区域(最大浸水深)
③ 土砂災害	1	土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域

※上記以外のハザード情報については、今後調査された後、反映していくこととする。

2) 分析項目

- ・ 災害種別ごとのハザード情報と、都市の情報とを重ね合わせることで災害リスクを分析し、災害リスクの高い地域を抽出します。

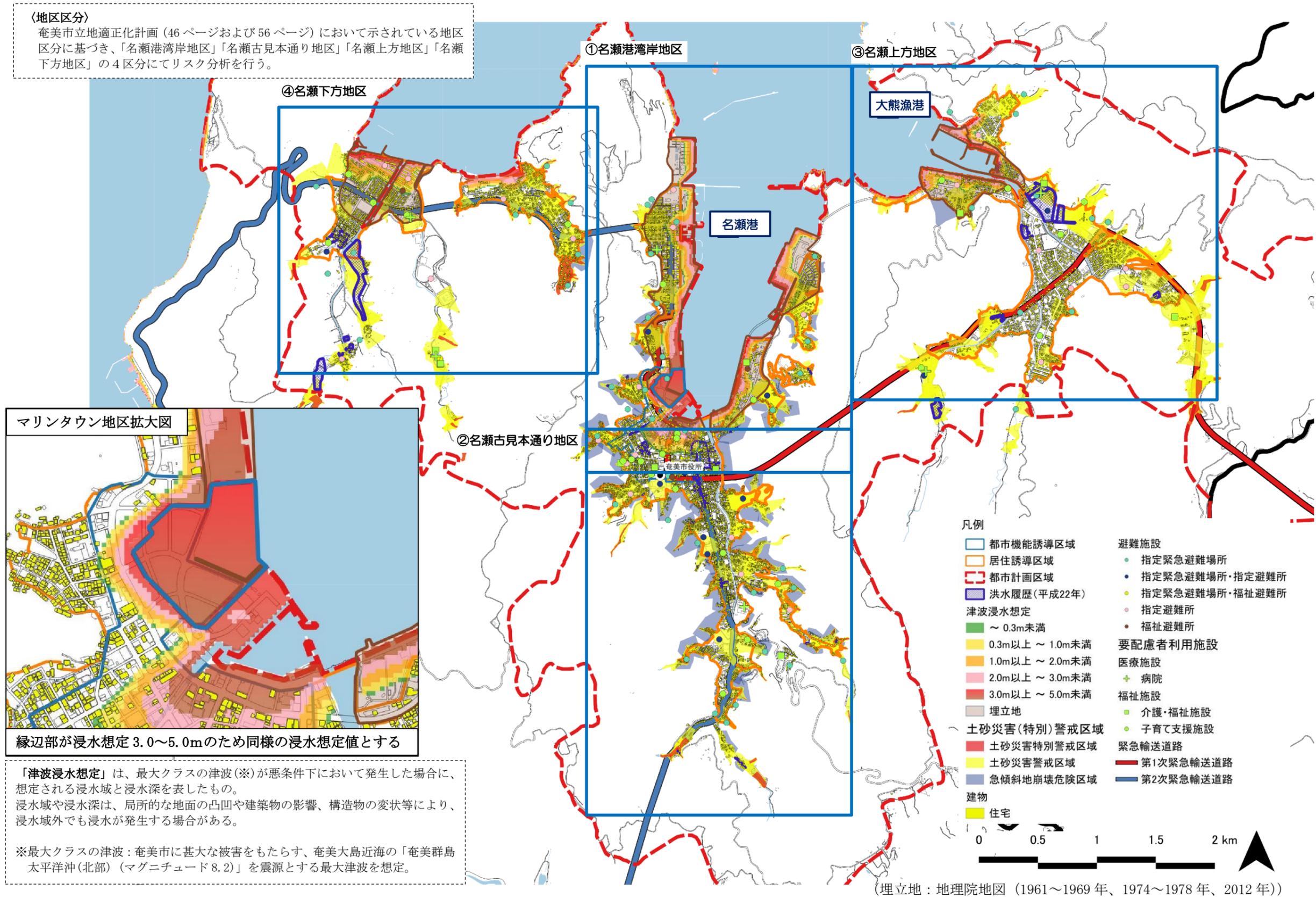
■都市情報

種類	No.	内容
住宅	A	住民が日常生活を送る住宅、共同住宅、併用住宅。 出典：奄美市都市計画基礎調査(2015年)
避難施設	B	災害から命を守るために避難した住民や、災害により自宅へ戻れなくなった住民が滞在するための施設。 出典：奄美市地域防災計画、奄美市洪水ハザードマップ
要配慮者利用施設	C	病院、介護・福祉施設、障害者支援施設、子育て支援施設などの防災上の配慮を要する方々が利用する施設。 出典：奄美市HP
緊急輸送道路	D	災害直後から、避難・救助をはじめ、物資供給などのために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線。 出典：国土数値情報(2021年)

3) 災害リスクの分析

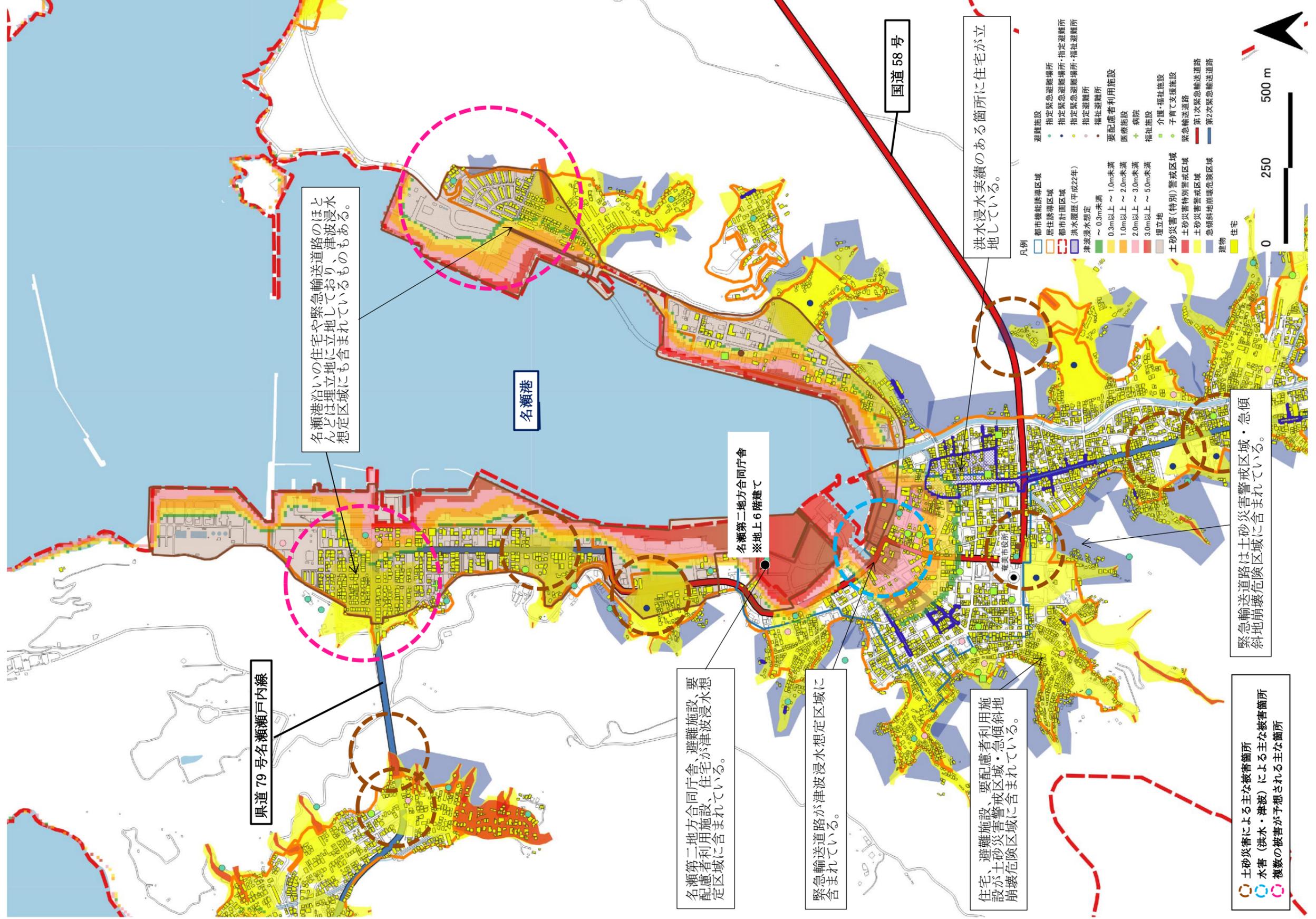
- 前項で分析した災害リスクを整理します。各地区の詳細な分析結果については、次頁以降に示しています。

〈災害リスク〉



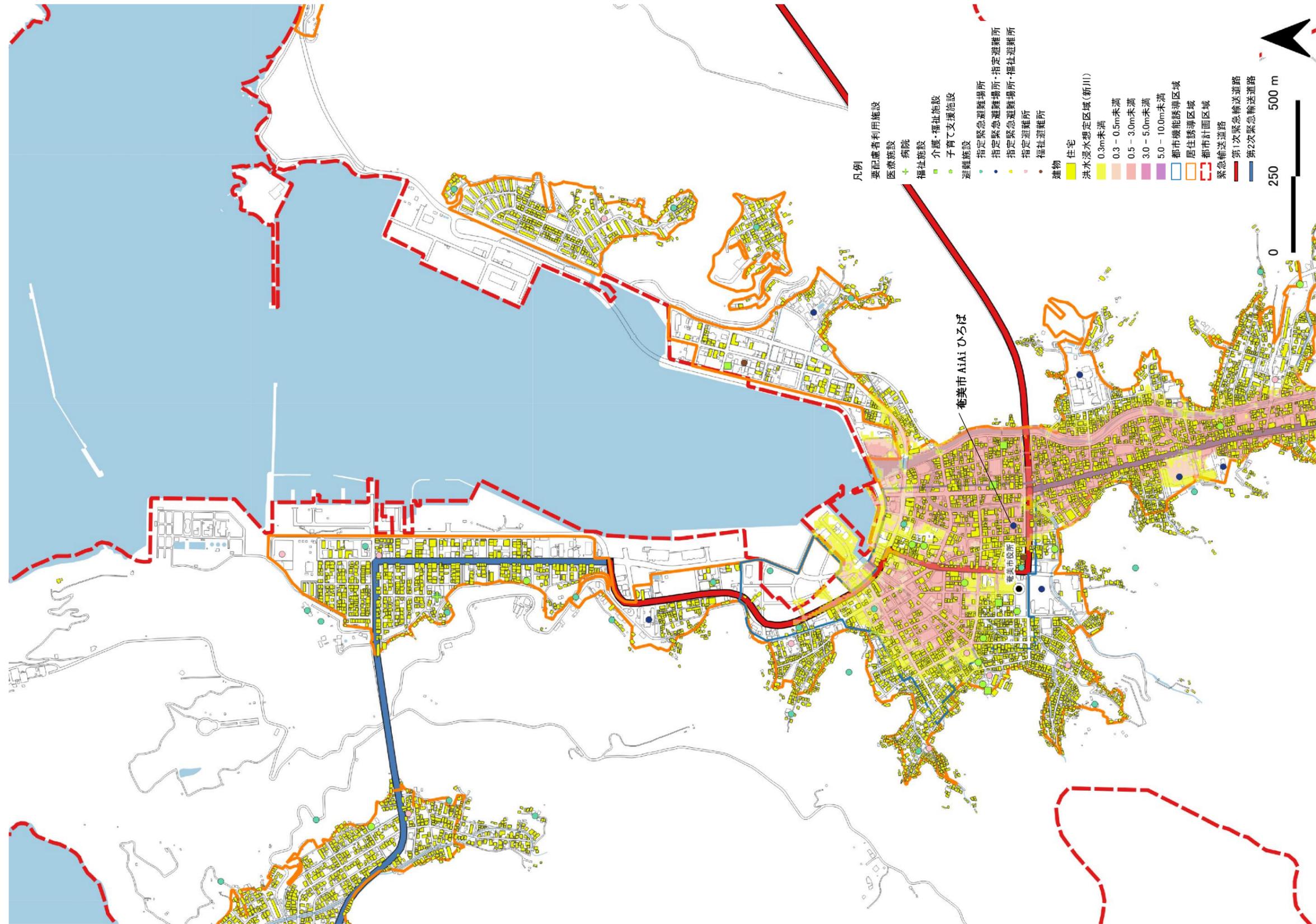
①-1 名瀬港湾岸地区

- 名瀬港と急峻な地形で囲まれた地区で他地区に比べて洪水、津波、土砂災害のリスクが高い状況にあります。



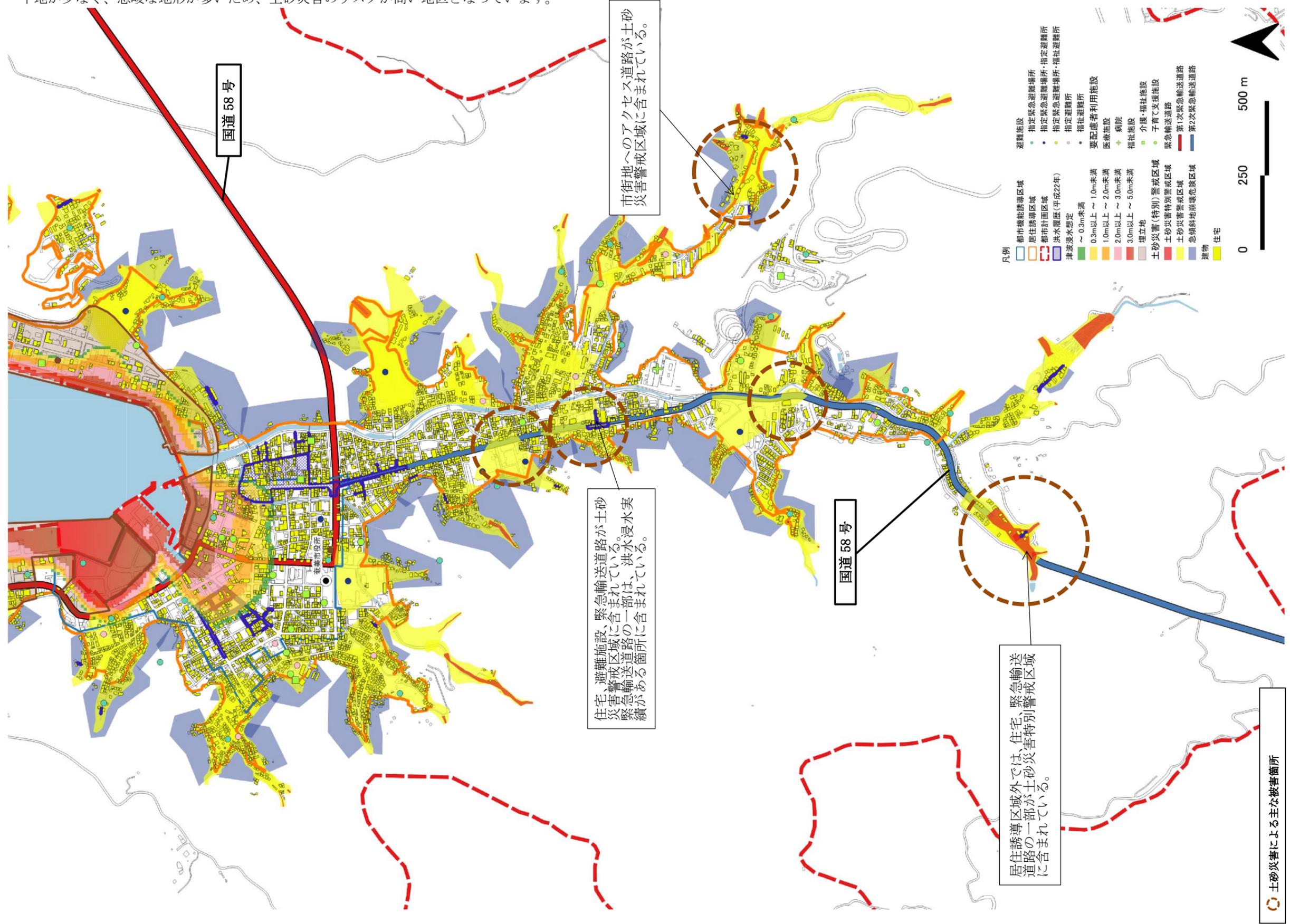
①-2 名瀬港湾岸地区（新川水系新川 洪水浸水想定区域（想定最大規模））

- ・ 「水災害の被害指標分析の手引（国土交通省）」によると、浸水深0.3m以上は災害時要援護者の避難が困難となる水位0.5m以上は要援護者以外の避難が困難となる水位とされています。
- ・ 市街地の大部分が0.5m以上の洪水浸水想定区域に含まれています。



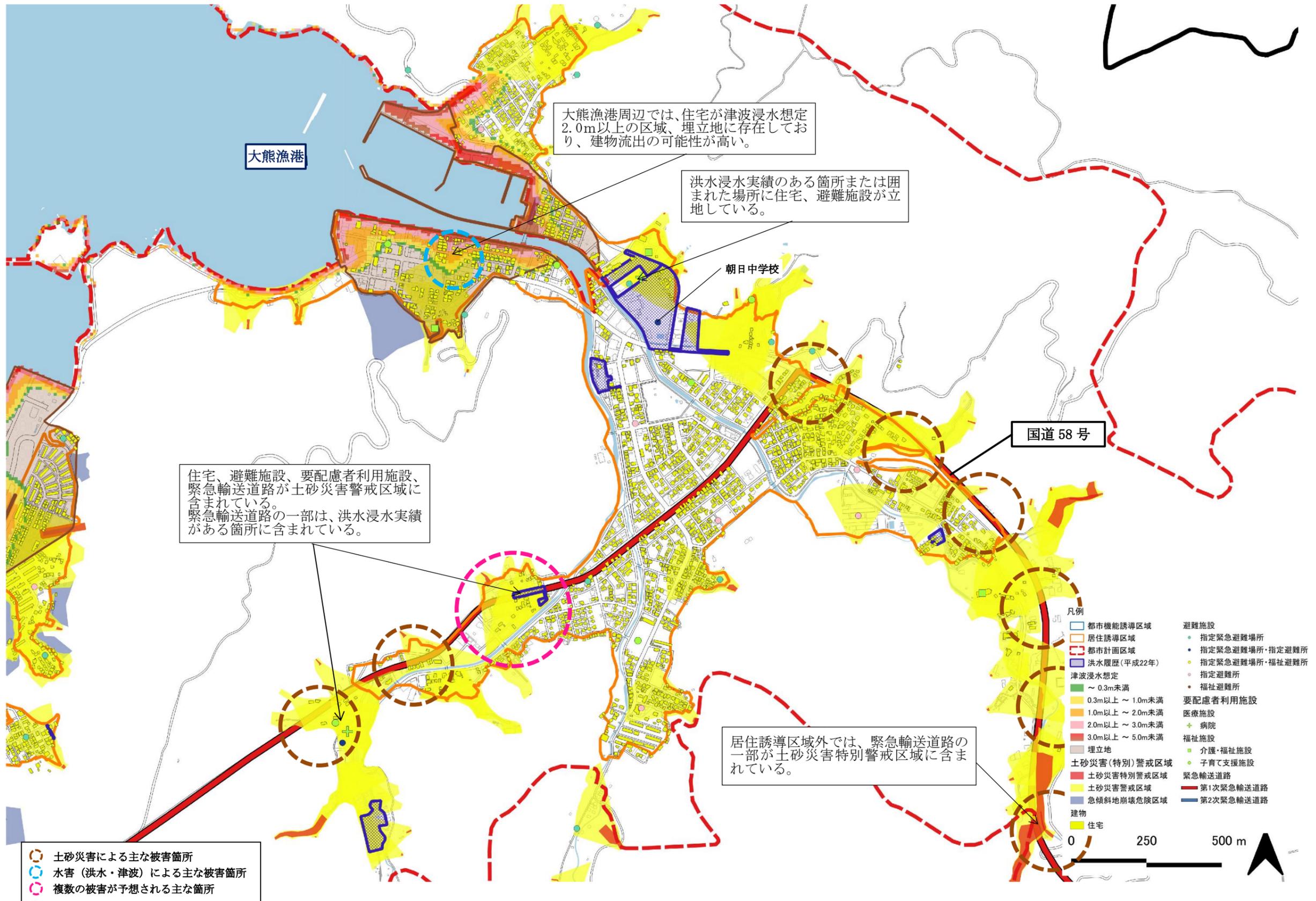
②-1 名瀬古見本通り地区

- ・ 平地が少なく、急峻な地形が多いため、土砂災害のリスクが高い地区となっています。



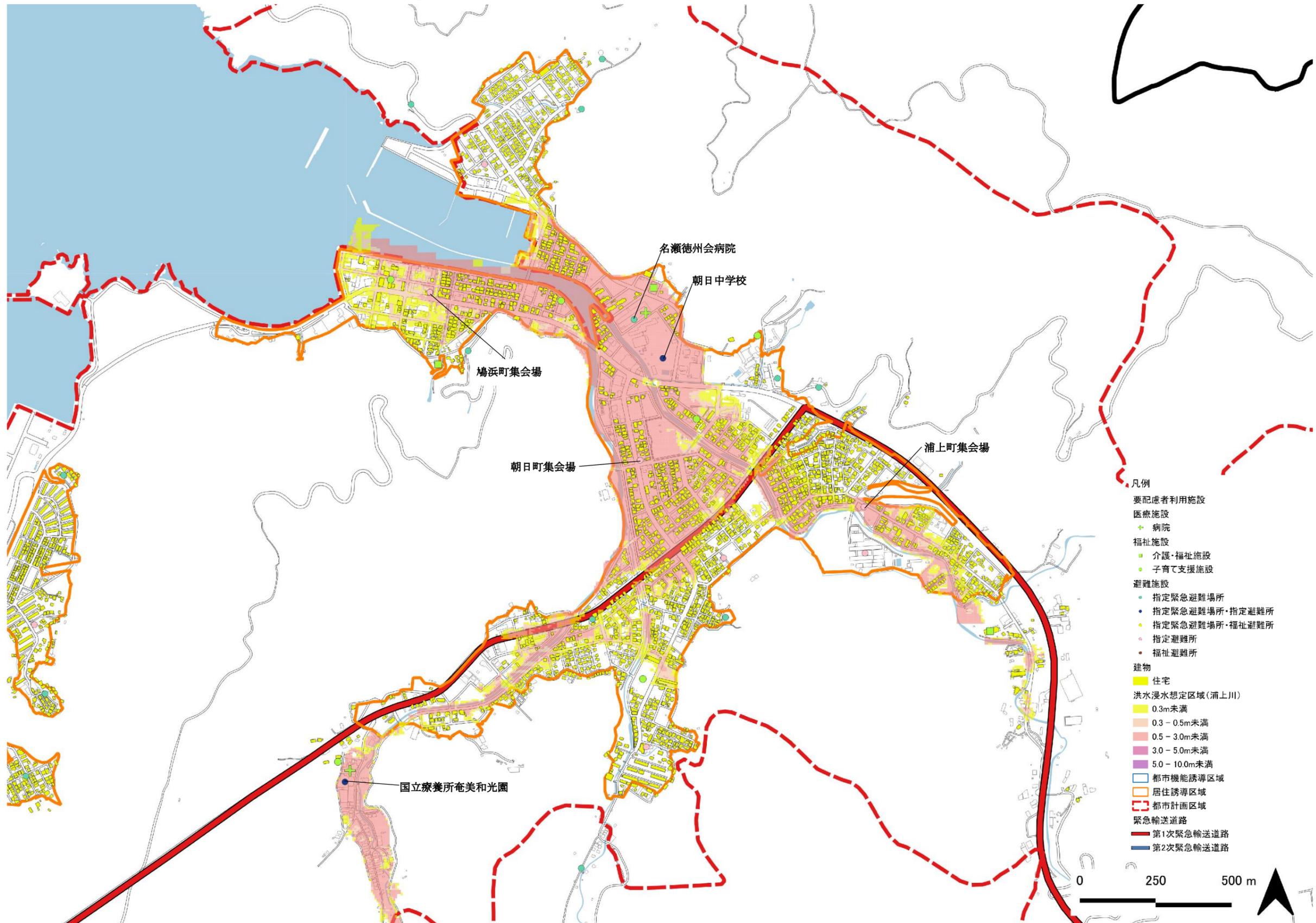
③-1 名瀬上方地区

- この地区は大熊漁港と急峻な地形に囲まれており、東側から市街地へとつながる緊急輸送道路である国道 58 号の大部分が、土砂災害警戒区域に指定されています。



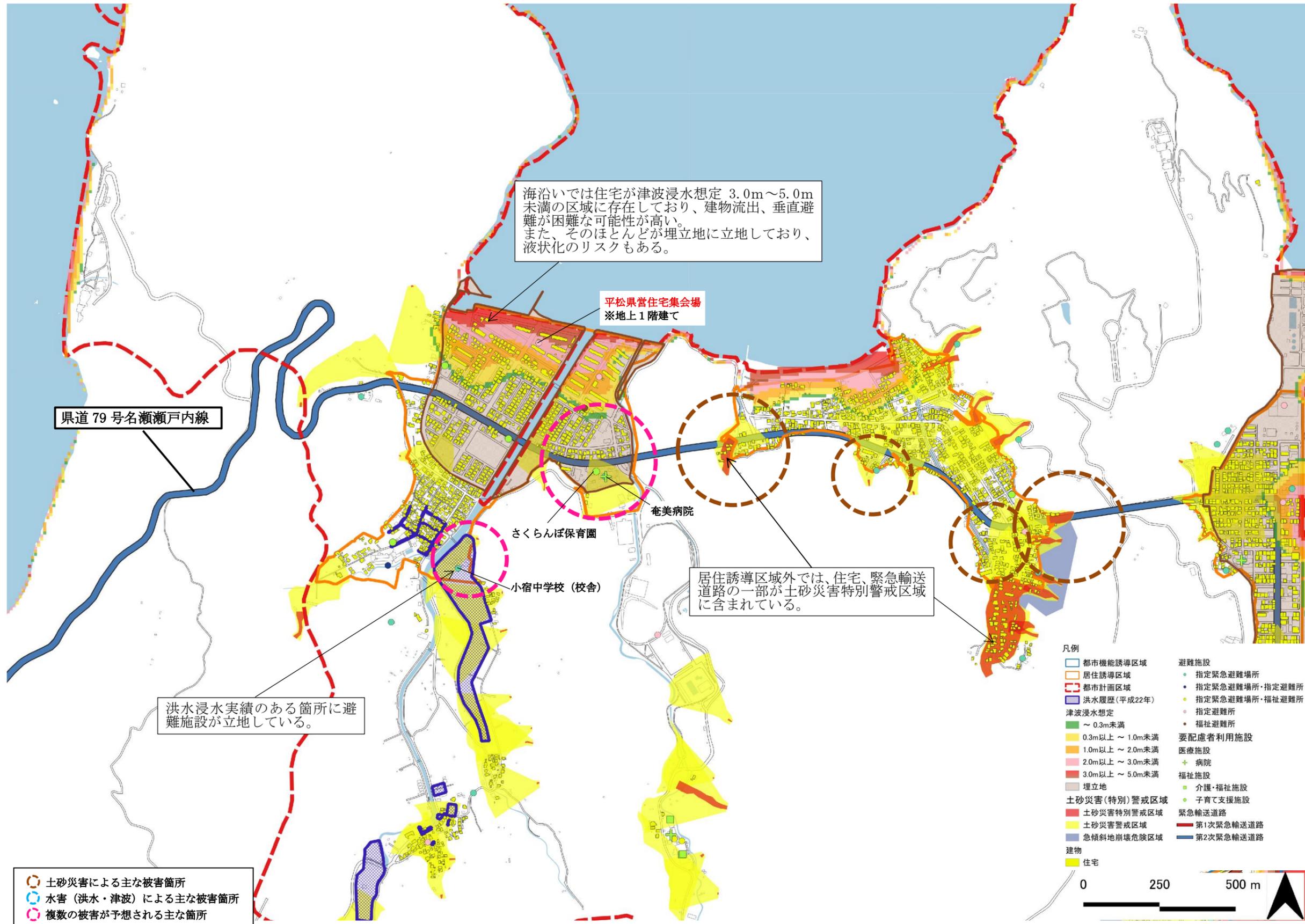
③-2 名瀬上方地区（浦上川水系 洪水浸水想定区域（想定最大規模））

- ・ 大熊漁港周辺を中心に、平地の大部分が0.5m以上の洪水浸水想定区域に含まれています。



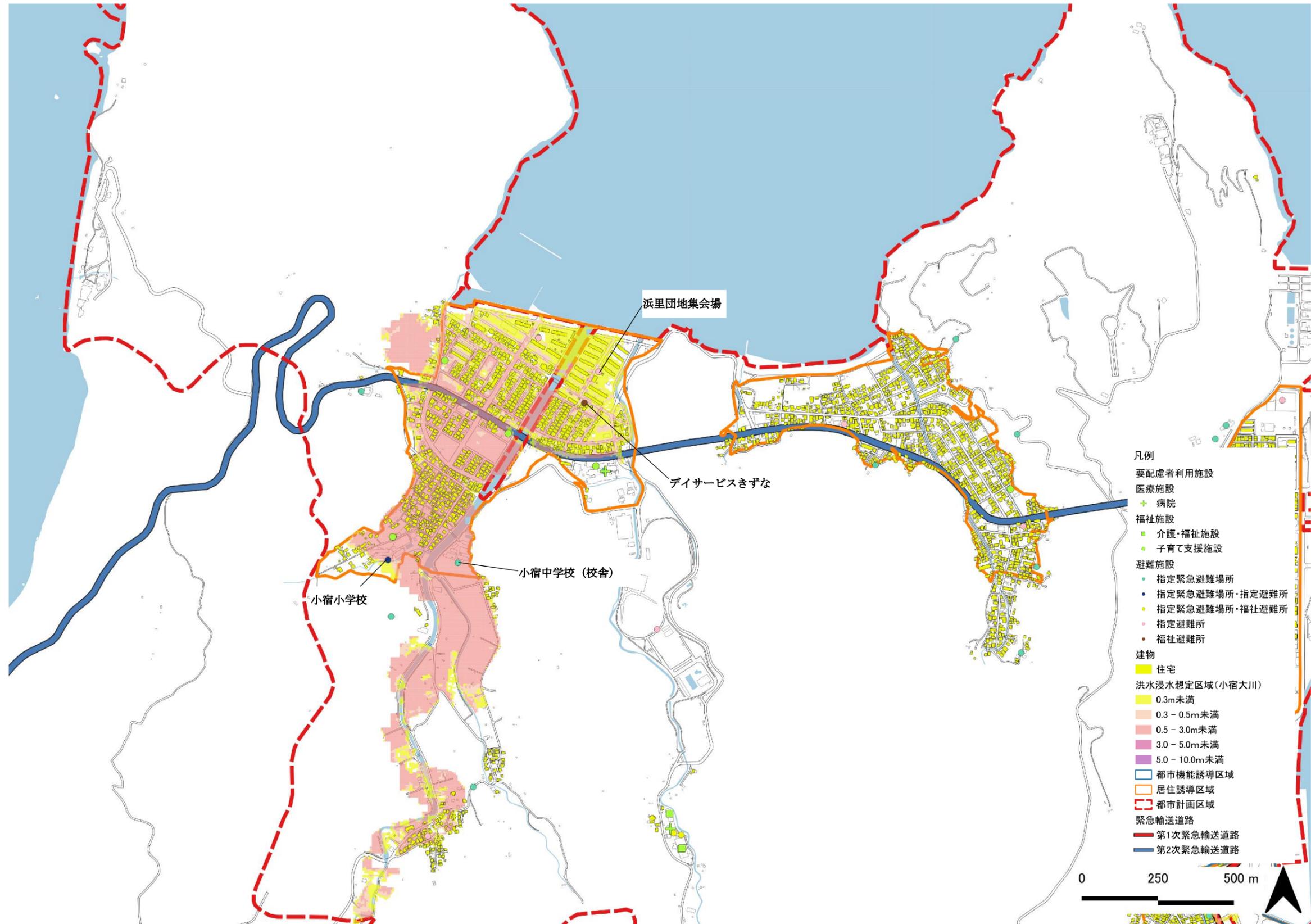
④-1 名瀬下方地区

- ・ 居住誘導区域外を含めると他地区に比べて津波、土砂災害のリスクが高い箇所に住宅が立地しています。



④-2 名瀬下方地区（小宿大川水系小宿大川 洪水浸水想定区域（想定最大規模））

- ・ 中流域の大部分が0.5m以上の洪水浸水想定区域に含まれています。



4) 災害リスクと人口分布の関係

- 上記の図と人口分布（総人口）との関係について分析し、その結果を以下に示します。

〈災害リスクと人口分布（総人口）の関係〉

